

石巻市の復興まちづくり (第59回)

このコーナーは、今後の復興まちづくりに関する情報をお知らせします。

今回は、「石巻市震災伝承計画」の紹介と、震災遺構として整備される旧門脇小学校校舎、大川小学校旧校舎を紹介します。

震災伝承

東日本大震災の被災を教訓とし、後世へ末永く伝えていくために、市は「石巻市震災伝承計画」を6月に策定しました。今回は、計画の内容と震災遺構整備方針について紹介します。

○震災伝承計画とは

震災の記憶を後世に伝承していくため、震災記念碑の整備や震災施設の伝承保存など、震災伝承事業の基本的な考え方を示すものです。

○震災伝承の基本的な考え方

市は、東日本大震災以前から多くの震災・津波被害を受け、震災・防災関連教育を行ってきましたが、東日本大震災では、死者・行方不明者3,601名という多くの命が失われました。

今後、時間の経過と共に防災意識が薄れていくことを避けるために、今後の震災伝承のあり方について検討する必要があります。

震災伝承の現状と課題

- ①収集した資料の利活用
- ②震災(防災)学習の体制整備
- ③効果的な情報発信
- ④慰霊・追悼の場の整備
- ⑤震災伝承を支える拠点づくり
- ⑥伝承活動に関わる多様な主体を支える仕組みづくり

○計画の実現のために

・産学官民連携による推進体制の検討方針

中間支援組織を中心に、幅広い活動主体の継続的な震災伝承活動を支援します。



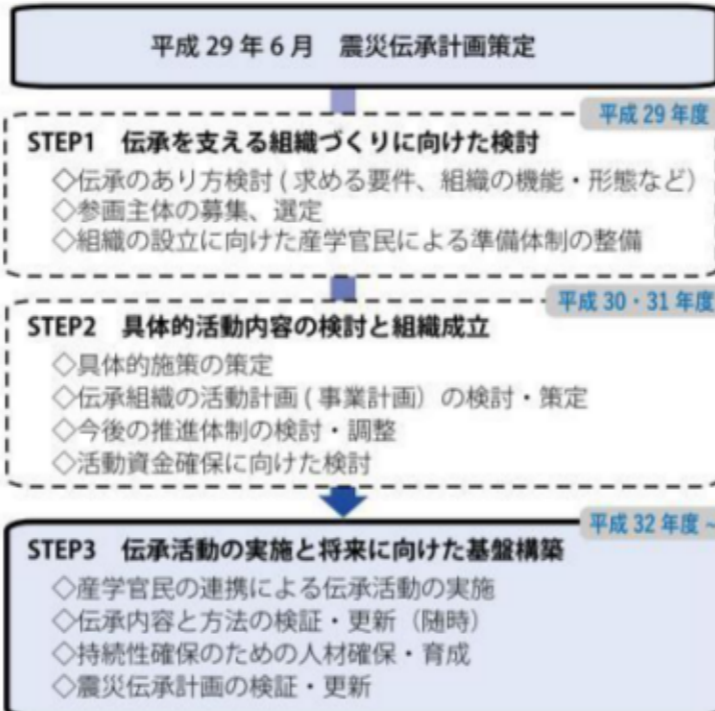
基本理念

東日本大震災の最大の被災地である石巻市は、かけがえのない大切な命を守るため、震災の事実と教訓、復旧・復興への思いを、世代を超えて、地域を越えて、すべての人々へ伝え続けます

基本方針

- ①継続的な資料の収集と利活用を推進します
- ②震災(防災)に関する学習の機会を創出します
- ③国内外へ震災の経験と教訓を発信します
- ④慰霊・追悼の場を整備します
- ⑤伝承活動の場を整備します
- ⑥持続的活動を支える推進体制を構築します

・実現化プログラム



旧門脇小学校校舎と大川小学校旧校舎の将来の姿 (震災遺構整備方針)

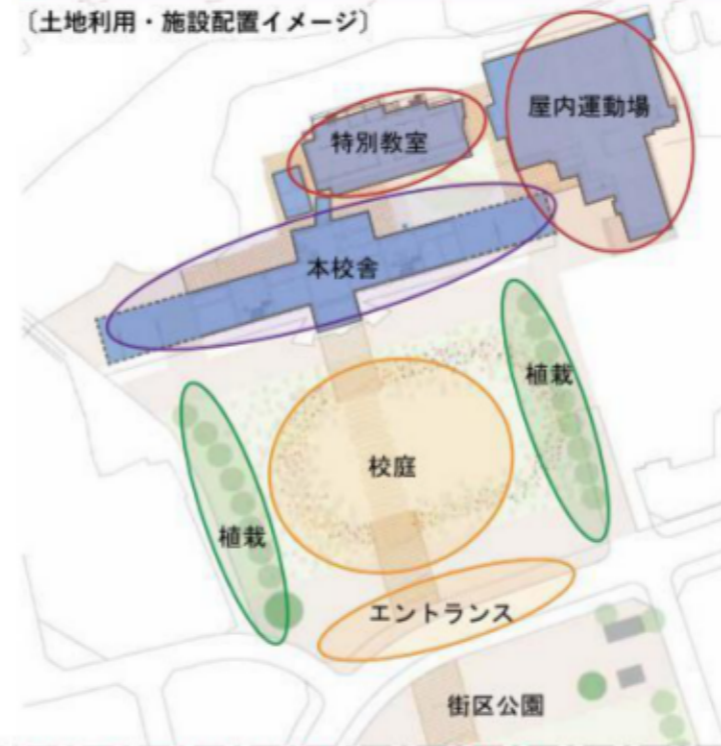
震災伝承計画の具体的施策に位置づけられている「慰霊・追悼の場の整備」と「伝承活動の場の整備」の一環として検討が進められている、旧門脇小学校校舎と大川小学校旧校舎の震災遺構整備方針について紹介します。

旧門脇小学校校舎 (一部抜粋)

○震災遺構整備方針

- ・校舎：3階までの一部を保存
- ・周辺：周辺環境との調和に配慮し、防災教育の場としての施設などを整備

(土地利用・施設配置イメージ)



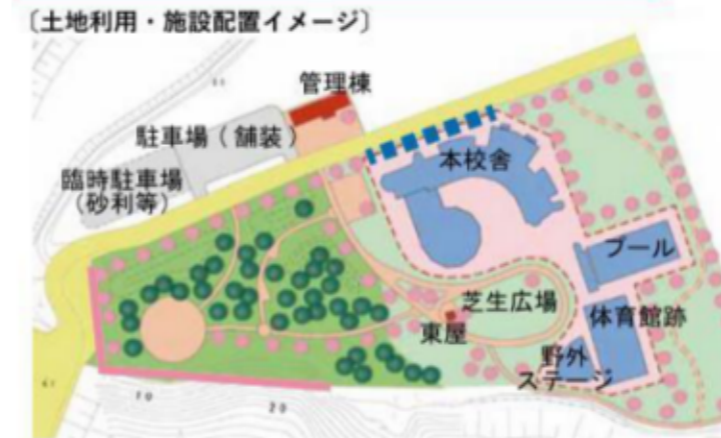
- ・内部立ち入りは行わず、本校舎内のカメラ設置による映像で見学
- ・火災被害のあった建物東側と、火災を免れた西側を対比し、火災による被害を伝承
- ・避難経路となった北側窓周辺を保存し、避難行動の実態を伝承
- ・特別教室は震災・防災学習・研究、防災訓練体験学習、資料公開、資料保管のための施設への改修・整備
- ・屋内運動場は、既存施設を改修し、地域の活動・交流エリアとして活用
- ・校庭は、地域の活動・交流エリアとして活用
- ・新門脇地区の周辺環境との調和に配慮した植栽など修景

大川小学校旧校舎 (一部抜粋)

○震災遺構整備方針

- ・校舎：全体を保存
- ・周辺：慰霊・追悼の場として環境を整備

(土地利用・施設配置イメージ)



- ・本校舎はそのまま保存
- ・本校舎及び周辺の既存施設(プール、体育館跡など)には極力手を入れず、現状の姿を保存(存置)する
- ・内部公開のあり方は、継続して検討
- ・本校舎は、沿道から見えないように配慮し、ブラインドとなる施設や植樹などを用意する
- ・既存の慰霊碑、モニュメントは、移設する方向で調整
- ・整備地区全体に桜を配置
- ・「震災伝承のための旧校舎」と「緑に囲まれた静かな祈り(慰霊・鎮魂)」の空間を配置し、植栽で仕切る